非核・いしかわ

2020年3月20日　月刊第260号

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の調印は81か国、批准は35か国（3月15日現在）

1面 社会運動・労働運動の今日的課題と日本の未来　山田敬男
4面 オリンピックと戦争　谷口源太郎
5面 原水爆禁止世界大会inNYは開催中止に
6面 大森定嗣さんに捧ぐ　井上英夫
＜会員リレーエッセイ＞ 慟哭の絵・言葉　志田弘子
7面 自衛官募集対象者　情報提供について考える　柴原和美
7面 ＜独標＞父が仰いだ空　大川陽一
編集室より
8面 いしかわの戦争遺跡めぐり　中西　優
絵手紙コーナー　広瀬勝子
非核・平和の掲示板

【講演要旨】石川県労働者学習協議会・新春講演会

社会運動・労働運動の今日的課題と日本の未来

労働者教育協会会長・現代史家　山田敬男

政治を根本的に変える

「安倍政権を退陣させ、政治を根本から変える」――これがいまの最重要な国民的課題だと思います。これを推進する力は、「市民と野党の共闘」です。一五年の安保法制（戦争法）反対闘争の成果を踏まえて、一六年の参議院選から具体化し、発展しました。最初はどうなるかと思いましたが、歴史は豊かであり、私たちの予想を超えて今日までできていると思います。

私も、ここにいるみなさんのほとんどもそうだと思いますが、六〇年代から七〇年代の革新共同の時代に「革新統一で世の中を変えよう」と青春を生き抜いてきました。その後、八〇年の「社公合意」などがあってどうなるかと思いましたが、新しい展望を民衆のたたかいが切り開いたのです。そして、いま「市民と野党の共闘」によって世の中を変えるというところまできました。

「市民と野党の共闘」の具体的な運動をみると、革新共同の時代よりもはるかに豊かになっています。左派、リベラリズム、良心的保守層という三つの潮流を基本とする大連合とこれまで経験のない共同闘争が生

慟哭（どうこく）（友禅染絵　志田弘子）

（関連記事　6面）

花鳥風月

三月二日、優れた教育実践家として知られた金森俊朗さんが逝去された。〝輝け　いのち！〟と骨太の筆致でサインしてもらった著書『学び合う教室』（角川新書）の帯には、金森学級では子どもたちが「学ぶ力」だけでなく、仲間と学び合う、競争社会を超える「生きる力」を身につけていた。金森実践の根幹には、〝非主流〟とされてきた生活綴方教育・生活教育があった、と書かれている▼一九八八年、金森さんが担任だった金沢市立十一屋小学校六年二組での生活教育の実践（岩佐幹三さんの被爆体験に基づく紙芝居づくり）を被爆七五年の今年、三二年ぶりに復活させる取り組みがある▼当時の金森学級の児童は、岩佐さんの五時間に及ぶ被爆証言をもとに四八枚の絵と文をつくり、紙芝居『戦いはまだ終わらない』を完成させた▼昨年暮れ、闘病中の金森さんからこの紙芝居を託されたCD「平和の子ら」委員会では、児童らの絵と文を原作として、岩佐さんへの聴き取り、絵は半分に絞り込み、文は史実の確認や広島弁の語りを増やすなど、脚本づくりに鋭意努力中である。紙芝居の完成・披露は、七月一九日、金沢市卯辰山・平和の子ら像前で開かれるピース・デイである。（か）

まれています。私たちの考えからすると、多数者革命に将来連動していくような大きな流れが生まれていると思われます。

共同の到達点の一つは、昨年の参議院選挙直前に締結された一三項目の「共通政策」です。これが野党連合政権をつくるうえでの議論の出発点になることは間違いありません。

「行動する知性派集団たれ」と熱く説く山田敬男さん

私が注目するのは、これがどういう経過で生まれたかという点です。市民連合でがんばっている、総がかり行動実行委員会の共同代表の小田川義和さんは、政策協定一三項目は「市民連合と各政党間でキャッチボールしながらまとめ」られてきたと語っています。また同じく総がかり行動実行委員会の共同代表で、「一〇〇人委員会」の高田健さんは「一九年の政策協定と一六年との大きな違いは、憲法、安保法制、平和の問題での発展に加え、生活の問題、ジェンダーの問題、若者たちの仕事の問題にまで踏み込んでいったこと」にあるとのべ、さらに注目すべきは「これはだれかが頭の中で考え出して並べたものではなく、運動の中から要求されて生み出されてきた」のだと指摘しています。すごく大事な点だと思います。

国民のなかでの変化をどうみるか

「市民と野党の共闘」のたたかいが成功するかどうかは、国民がそれをどう受け止めるかで決まります。

問題は、安倍内閣が悪政を続けて支持率が下がるけれども、依然として一定の支持が存在していることです。このことをどうみるかという質問が、学習会などでよく出されます。重要なことは、たしかにそれなりの支持がありますが、安倍内閣への支持の多くは「他の選択肢がないから仕方がない」という消極的なものが多いことです。これは野党への不満や批判と結びついています。

したがって、「市民と野党の共闘」を本気の共闘に発展させて、「共通政策」をより豊かに発展させながら、『市民と野党の共闘』は日本をこう変える」「そのために総選挙で『市民と野党の共闘』による連合政権をめざす」という選択肢を、国民にわかるように提起をしていけば、国民の不満はすごいので、政治は急速に変わっていくと思います。

やはり労働運動の「力」が重要

こうした変革の力である共闘を成功させていくためにも、労働組合運動の存在意味が問われています。

これまでも労働組合は一定の役割を果たしてきましたが、本当に連合政府をつくるという中期的な展望に立った場合には、よく言われる「敷布団」の役割にとどまっていてはなりません。やはり組織された力を持つ労働組合が、この共闘の推進的な役割を果たさないといけないと思います。これは国民的な課題です。ところが九〇年代以来、労働組合は構造的に困難な状況に置かれ続けています。このことを戦後の労働運動の歴史の中で考えてみましょう。

戦後労働運動の第一段階は、連合軍の占領期で、たたかうナショナルセンターであった産別会議が主導していました。爆発的に運動が高揚し、労働組合は労働者の〝希望の星〟でした。労働歌も広く歌われ、文化的なたたかいもまた活発でした。『二・一ゼネスト』運動がその象徴でした。

第二段階は、五〇年代からの総評主導の時代です。弾圧・分裂・謀略（下山・三鷹・松川の各事件等）によって産別会議の運動が後退し、反共親米・労使協調の「総評」が誕生して主導権を握りました。その総評も、情勢の厳しさと下部労働者の闘争エネルギーを反映して、戦闘性への質的転換も起き、いわゆる「民同左派」が主導権を握ります。そして、六〇年安保、三井三池闘争、ベトナム反戦運動、国民春闘などで積極的役割を果たしました。

第三段階は、七〇年代後半から、労働戦線の右翼的再編が本格化し、八九年の連合の成立に見られるように、戦後初めて、右翼的潮流が労働運動の主導権を握る時代です。

その後、八〇年代の臨調「行革」や九〇年代の新自由主義的構造改革によって、日本社会が、とくに職場社会が大きく変貌し、労働者の集団的関係の空洞化が進行し、労働組合の団結の基盤が崩されていきました。そして、労働戦線の右翼的再編に反対して、たたかうナショナルセンターである全労連（全国労働組合総連合）が、八九年に誕生しました。

構造的困難の特徴

それでは、構造的困難さの特徴はどこにあるのでしょうか。

第一に、先ほども述べたように、九〇年代の新自由主義的構造改革によ

って、職場社会が大きく変貌し、労働者の集団的関係が壊されたことです。九五年の日経連の「新時代の『日本的経営』」に見られるように、成果主義の導入と非正規雇用の推進が本格化し、労働者間の競争と分断が激しくなり、長時間過密労働が拡大していきました。これは一部の上層部分と大量の中下層部分に分断し、多くの労働者を企業「共同体」から排除し、競争のなかで生きることを強いる支配の形への転換でもあったのです。多くの労働者は孤立と不安の中で働き生きることを余儀なくされ、仲間のことに関心を持てなくなり、「自分のことで精一杯」となり、社会性を喪失しています。

第二に、八〇年代後半からの新自由主義的教育改革によって、教育が歪められ、「国民的教養」と「集団的自治能力」の欠如が深刻になっていることです。主権者として労働者として必要な基礎的人格的諸能力が奪われているのです。労働運動の問題から言えば、このことは階級的自覚形成の前提条件が奪われていることでもあります。

労働組合運動の活性化をめざして

このように、九〇年代以降、日本の労働運動は、構造的困難に陥っています。それではこの困難を打開するには何が重要になっているのでしょうか。

第一に、社会的視野と広がりを持つ運動を職場、地域からつくりあげることです。労働者は職場での生活と地域における住民の生活という「二重の生活」をしており、様々な矛盾を抱えて働き生活しています。その問題をきちんと討議し、職場と地域を結びつけ、人間らしい生活を取り戻すにはどのような要求や課題を実現し、解決するべきかの合意づくりが大切です。

第二は、職場地域に、理不尽なことは許さない人間関係」「当たり前でまともな人間関係」を再構築していくことです。そのためにも、何でも話せる仲間の「居場所」をつくらなければなりません。そして労働組合こそが、「居場所」になる必要があります。そのためにも、労働組合は民主主義的運営に成熟し、上からの動員主義でなく、「納得」と「共感」にもとづく活動スタイルを定着させることが重要です。

第三は、「国民的教養」と「集団的自治能力」を回復させることです。人権と民主主義とは何か、国民主権とは何か、労働組合はなぜ必要であり、憲法で特別に保障されているのか、などの基礎的問題の理解を深めることが大切です。これがなければ市民としての自立も、労働者としての階級的自覚も成り立たないのです。さらに、自分たちで話し合い、自分たちで決め、仲間との共同の力でやり遂げる経験の蓄積を追求して、仲間の「集団的自治能力」をたかめることが労働者の団結力の向上に絶対欠かせません。

第四は、魅力的な活動家集団の再構築です。活動家の勇気は、信頼できる仲間に支えられ、常に物事の核心を把握する根本的で「ラディカルな」学習が必要です。仲間との関係を深めるには、仲間をうわべで見ない私たちの複眼的な眼が必要です。そのためにも、相手の立場に立って考える気風を自分のものにすることが求められます。

根本的で「ラディカルな」学習では、個人の尊厳と結合した民主主義と人権の理解を深め、そのうえで、社会科学の基礎理論の体系的学習が重要になっています。先進国、市民社会における労働者の階級的自覚は、民主主義と人権の理解を媒介として形成されるのです。こうした努力の積み重ねが、構造的困難を打開し、労働運動の再生と発展につながると確信しています。

地域、職場に「行動する知性派集団」を！

政治と社会を根本的に変えるには、市民運動と労働運動が連携し、多数者による多数者のための本物の改革をめざす長期の陣地戦が求められます。

発達した資本主義国における社会変革は、複雑な問題を抱えており、簡単ではありません。粘り強い運動によって、地域や職場に「当たり前でまともな人間集団」をつくり、この「集団」を基礎に多数派を形成することが求められます。この課題に挑戦されるのが、今日、ここに参加されている皆さん方でもあります。そのためにも、皆さん方が、考え学習しながら行動する、行動しながら考え学習する「行動する知性派集団」になって頂きたいのです。

それは言い方を変えれば、皆さんが、憲法と民主主義にこだわり、真の歴史認識にこだわる「したたかな市民」になることでもあります。今日は年配の方が多いようですが、青年たちのエネルギーとともに、中高年の経験と知恵＝文化が重要です。社会を変えるうえで中高年の役割は極めて大きいと思います。いま求められているのは、魅力的な中高年です。私たち中高年も自分を変革し、青年たちと質の高い連帯を創りあげていきましょう。お互い、最後まで自分の可能性に挑戦しながら頑張っていきたいものです。

（文責・中村昭一）

◎二月二二日、近江町プラザで開かれた石川県労働者学習協議会主催の講演会の要旨です。

【講演要旨】戦争をさせない石川の会　学習会シリーズ

オリンピックと戦争

講師　スポーツジャーナリスト　谷口源太郎

東京オリンピックは根幹から揺れている。何のために東京でオリンピックを開くのか。何を目指しているのか。二〇二〇年東京大会を主導したのは森喜朗元首相である。森喜朗・東京大会組織委員会会長が考えるスポーツとは何か。森会長は「スポーツの精神は滅私奉公である」と云っている。スポーツとはお互いに理解し尊敬しあうものであり、自分を殺して公に尽すことはありえない。滅私奉公、国に奉仕することはオリンピック精神と真逆である。

講師の谷口源太郎さん

森会長はラグビーでよく使われる「オール・フォー・ワン、ワン・フォー・オール」にならって、「オールジャパン」を掲げ、二〇二〇年東京オリンピックを「国民一丸」となり、「国民総動員体制」を作り上げようとしている。このようにオリンピック精神と相反する思想のもとで東京大会を招致した。

戦争によって砕かれたオリンピズム

一九二五年制定のオリンピック憲章では「スポーツを通じ、相互理解の増進と友好の精神にのっとって若人たちを教育し、それによって、より良い、より平和な世界の建設に協力すること」と記載され、平和主義・国際主義を強調している。このオリンピック憲章の理念（オリンピズム）は、他の国際的なスポーツイベントにはない大きな特徴である。

このオリンピズムは、戦争に対しどれだけ抗う力になっただろうか。戦争により、第一次世界大戦で一九一六年の第六回ベルリン大会、日中戦争で一九四〇年の第一二回東京大会、第二次世界大戦で一九四四年の第一三回ロンドン大会の三大会が中止になった。国際オリンピック委員会（IOC）はこの三大会中止の総括、自己批判をしっかりやっていない。

東西冷戦とモスクワ大会ボイコット

東西冷戦の時代、カーター米国大統領がソ連のアフガニスタン侵攻を理由に一九八〇年のモスクワ大会のボイコットを呼びかけ、西ドイツ、日本など五〇か国が同調し、参加国は八一に過ぎなかった。先の三大会中止とこの大規模ボイコットで「オリンピックは終焉した」との見方が広がった。さらにソ連をはじめ社会主義国が一九八四年のロサンゼルス大会をボイコットした。また同大会はオリンピック憲章の理念を完全に放棄して、商業主義に走り、興行としての国際スポーツイベントに変質してしまった。それ以後のオリンピックは、全て商業主義（マネーファースト）でおこなわれている。

国威発揚の道具にされる選手たち

もう一つの特徴は、国威発揚を背景にした国家間のメダル競争である。メダル競争の負の遺産がドーピング問題だ。クスリで人間の限界を超える力を発揮させてメダルの獲得競争がエスカレートしている。毎回の大会で違反者が出ており、今やドーピングは押さえようがない。

この背景にあるのが勝利至上主義、金メダルでなければ意味がない。二〇二〇年東京オリンピックの日本チームの最大の目標が（金メダル三〇個獲得）であり、これ以外に目標がない。ここに焦点を当ててヒト、モノ、カネを集中させている。

このため選手は二重の意味で疎外されている。一つは商業主義のもと商品として選手はスポンサーと契約を結び、広告宣伝役を担わされている。もう一つはメダル獲得（日の丸を上げる）ために頑張ることを強いられ、国威発揚の道具にされている。このようにオリンピックが商業主義とナショナリズムに陥っていることにつき、選手たちはあまりにも無自覚ではないのか。

安倍首相のオリ・パラ翼賛の狙い

安倍首相が唱える「積極的平和主義」とは、改憲して自衛隊を軍隊として認め、海外派兵ができる「戦争をする国」になることである。いま中東地域に（調査・監視を名目に）自衛隊を派遣しており、他方、「福島はアンダーコントロールされている」と大ウソをついて東京オリンピックを招致した。安

倍首相は、今年一月二〇日の施政方針演説でもすべての項目にオリンピック・パラリンピックをからませて翼賛し、国民が一体となって新しい時代（改憲）に踏み出すことを訴えた。オリンピック・パラリンピックの露骨な政治利用である。このままでは東京大会は、改憲＝「戦争する国づくり」につながる恐ろしいオリンピックになる。

戦争とパラリンピック

パラリンピックも戦争と結びついている。第二次世界大戦の戦闘によって脊髄を損傷し、車椅子を使用するようになった下半身麻痺者のリハビリとしてスポーツが取り入れられた。一九四八年ロンドン大会の開会式に合わせて病院内でアーチェリー競技会を開催。一九五二年のヘルシンキ大会で「国際ストーク・マンデビル競技大会」に発展。一九六四年の東京大会から「パラリンピック」（パラプレジア＝下半身麻痺者とオリンピックを組み合わせた日本製の造語）と呼ばれるようになった。

障害者のためのリハビリは意味があり、日常的にスポーツができる環境整備が大事だが、国威発揚のメダル獲得に走っているのが実情だ。パラリンピックは障害者スポーツのエリート化であり、東京大会後には予算が大幅にカットされ、障害者のスポーツ環境が劣悪に、負の遺産となることが危惧される。

「復興オリンピック」の名のもとに

森会長や安倍首相は「復興オリンピック」と謳っているが、地元の人たちは決して納得していない。帰宅困難地域はどんどん解消されているが、実際に戻ってくる人は少ない。なぜなら従来あった住民の生活やコミュニティが根こそぎ壊されたからだ。

東京大会の聖火リレーのスタート地点が福島のJヴィレッジ。このJヴィレッジは原発事故対応の拠点になったところで防護服を洗浄した大量の汚染水や、セシュウム・ボール（粒子）が空中には飛散していた。実際にJヴィレッジの近くで高濃度の放射線量が計測されている。「復興オリンピック」の名のもとにこの場所で聖火リレーをスタートさせるのは人命軽視である。三月二六日、福島を皮切りに聖火リレーは全国一丸となって全都道府県をまわる。これをNHKはじめメディアが大きく取り上げる。

東京大会のオリンピックをNHKは連日、民放は各社日替わりで放送する。大会期間中は一日中、オリンピック番組が占め、オリンピック翼賛報道となる。「全国民一丸になって」「滅私奉公」で盛り上げていく方向につくられていくだろう。

このようにオリンピックはいろんな問題をはらみながら国策として国家主導で大きな流れがつくられようとしている。大きな危機感を持って、批判的に注視していきたい。

（非核・いしかわ編集部）

◎二月二二日、金沢市歌劇座別館三階大練習室で開かれた戦争をさせない石川の会二〇二〇年学習会・シリーズ「戦争」（第一回）の講演要旨です。

戦争をさせない石川の会 2020年学習会 ・ シリーズ戦争

回	テーマ	講師	日時	会場
1	オリンピックと戦争	スポーツジャーナリスト 谷口源太郎	2月22日(土)14時	金沢歌劇座 別館3階練習室
2	天皇代替わりと戦争	日本キリスト改革派金沢教会 牧師 漆崎英之	4月18日(土)14時	金沢歌劇座 別館3階練習室
3	ジェンダーと戦争	神戸大学大学院教授 ロニー・アレキサンダー	6月20日(土)14時	金沢勤労者プラザ101号室

原水爆禁止世界大会inNYは開催中止に

新型コロナウイルス感染の世界的なひろがりの事態に対応するために、世界大会ニューヨークを主催する国際企画委員会は三月一一日、オンライン会議を開き、四月二四日、二五日に予定されていた「世界大会ニューヨーク」、二六日の屋外での集会と行進をすべて中止することを決定しました。新型コロナウイルスの世界的な広がり、国連関係の一連の会議の変更や中止、国連の建物への外部からの立ち入り禁止、ニューヨーク州と市の緊急事態宣言など現在の動向、大会参加者の渡航制限や健康への影響などを考慮したものです。

国連本部で四月二七日～五月二二日に予定されている核拡散防止条約（NPT）再検討会議も今年夏か来春への延期を軸に検討されています。

国際企画委員会のジョセフ・ガーソン代表は、「この世界大会ニューヨークには一五〇〇人の参加登録がありました。今後ともこの共同が続くことに期待し、皆さんの地域社会と各国での行動の成功を心から願うものです。」とコメントを発表しています。

大森定嗣さんに捧ぐ

代表世話人　井上英夫

大森定嗣さん

（写真提供：日朝協会県支部）

大森さんが亡くなられたという訃報に、あの渋い笑顔が浮かびました。私が金沢に来たのが一九八六年、「非核の政府を求める石川の会」発足が一九八八年、結成準備会で初めてお会いしました。

第一印象は、正直、気難しそうな人だな、でした。会議でも常に一本筋の通った意見をおっしゃる。良い意味での原則論者だと。しかし、会の後は必ず一杯、酒を口に含んだ時のあの微笑み、これも忘れられません。

いただいた沢山の著書を拝見して、その発言の重みが、教職員組合、原水協での活動等平和と人権のためのたたかいと、あらためて膨大な読書によるものだったと感じています。

非核石川の会の第一目標、県内全自治体の「非核・平和都市宣言」は一九九八年に達成されましたが、大森さんの「日本人にとって、核兵器廃絶の実現は、戦後責任の一つである」という強い思いがなければ実現できませんでした。

大森さんは、一八八四年の自由民権の最高、最大かつ最後の戦いである秩父事件に関心を持ち何度もフィールドワークに参加されました。私のふるさと秩父、そして核廃絶・平和実現への旅をご一緒したかった、と痛切に思っています。

大森さんの平和・人権のためのたたかいの「絶えることなき継承発展」をお誓いし、ご冥福をお祈りします。

・・・・・・・・・・・・・・

◇大森定嗣さんの紹介◇

一九二九年七尾市生まれ。第四高等学校卒後、中学校教師として勤務。通算一一年間、石川県教職員組合の書記長、文化部長など専従を務める。

一九九二年、創作集『歴史を刻む音』を出版し、泉鏡花記念金沢市民文学賞受賞。その後も創作集、エッセー集を多数出版されている。

日朝協会石川県支部理事長、原水爆禁止石川県協議会代表理事を歴任され、非核の政府を求める石川の会では一九八八年の発足時から二〇年間常任世話人として活躍し、県下全自治体の「非核・平和都市宣言」の実現に尽力された。

二〇二〇年二月二〇日逝去、九〇歳

非核石川の会リレーエッセー

慟哭（どうこく）の絵・言葉

志田弘子

写真から目が離せませんでした。遠い国のやせ細った子ども達・・目の前で肉親を殺され、腕を切り落とされた子どものうつろな瞳・・戦争を知らない私であっても、日々、目にする報道は、子ども達を追い詰める、とどまることを知らない世界の残酷さが伝わってきます。

戦争のもたらした大きな苦しみ、哀しみ、いのちを無残に奪い去る狂気・・。もう二度と繰り返さないようにと心から願った平和憲法を、戦争のできる国にするために何食わぬ顔で、きれいな言葉を連ね続ける国の長達・・大国が己の利益のみを考えて、逃げ惑う人たちにボタン一つで、ゲームのように遠い場所から吹き飛ばす無残さをも、反論もしないばかりか、考えることも放棄したかのように、付き従う情けなさ・・。

一つ一つのかけがえのないいのちを、どうして思うことが出来ないのだろう・・。愛しいものを奪い去るのが戦争で・どうしてそこに向かっていく愚かさを止めることが出来ないのだろう・・。この母達の哀しみをどうしてわからないのだろう・・と思った時の絵です。

そして描いている途中に〝あ、どこかでこの気持ちに出会っていた〟と思いました。それは、五〇年余り前に見た絵でした。

長い戦争で、子と孫をなくしたドイツの一人の母ケーテ・コルビッツの手になる数枚の白黒の版画は、あまりにも重く、辛くて・・記憶の向こう側に置いていたのでした・・が、悲痛な叫びが痛いほどにあらわされていたその版画を、今、若い時より、もっと、もっと身近なものとして思い起こしています。

遠い日の衝撃を思いつつ・・想いを表現したい・・何かできることをしたい・・と、ノロノロとながら、長い間、迷って探し続けていた根っこの一つに出会った気がしました。

（注）慟哭（どうこく）の絵は一面に掲載。

自衛官募集対象者情報提供について考える

柴原和美

昨年二月一〇日の自民党大会で安倍首相は、「残念ながら（自衛隊の）新規隊員募集に対して、都道府県の六割以上が協力を拒否しているという悲しい実態があります」（のちに「自治体の六割以上」に修正）と述べた。

県平和委員会は、県内自治体の状況を調査し、九五％の自治体が住民基本台帳の閲覧を含めて協力していることがわかった。

憲法一三条でプライバシー権の保障と各自治体の「個人情報保護条例」で個人情報保護を厳密に扱うことが謳われ、住民基本台帳の閲覧や利用には厳しい条件があり、一様に根拠法としている「自衛隊法第九七条」「自衛隊法施行令第一二〇条」は、個人情報提供を「義務づける」ものではないのに・・・。

義務がないことは、昨年二月一九日の岩屋防衛大臣（当時）の記者会見で、「防衛大臣からの公文書としての依頼書は、すべての自治体にお届けをしておりますので、その中に具体的に当該情報の提供をお願いしたいというふうに書いてございますので、まずは文書において、すべての自治体にお願いをしているということでございます。もちろん、紙だけを届ければいいということではないと思いますので、地方協力本部において、やはり出向いて御挨拶をし、お願いをする等の努力がしっかり必要だと思っております。」と、協力のお願いを徹底していると述べていることからもわかる。

電子媒体で提供した金沢市のように、既に今年二月には、紙等で提供した自治体が出てきている。ある自治体関係者は、防衛大臣の印を押した文書には「圧力を感じる」旨語った。

自治体が提供するのは、一八歳など若者の個人情報だ。知らないうちに、自分の情報が横流しされているのは何と怖い世の中か。

尚、各自治体には、個人情報保護条例に基づき「個人情報利用停止請求書」を提出できることになっている。

詩人会議かなざわ「独標」より

父が仰いだ空

大川陽一

鏡の中の自分に
ふと　父の面影を見る
その声は　とうに忘れ
遠い記憶は
銭湯の湯気と　太腿の温もり
自転車に揺られ
駆け降りた坂の道

せんそうが
あと　ひと月長引いて
父が戦地へ向い
いのちを落としていたなら
今の私は
生まれてなどいない

昨日までの教えが
黒塗りされた日
練兵場の八月の空は
どんな雲が
浮かんでいたのだろう
十八歳の父の胸に
どんな想いが
湧き上がったのだろう

鏡の中の父は
笑ったように見えた

編集室より

◎コロナ禍についてＷＨＯがかなり遅れてパンデミック宣言。世界株価の大急落が全てを物語る。国民生活も大打撃を被っている。ＮＰＴ再検討会議は延期、同ＮＹ行動は中止となった。世界規模での感染防止と医療環境の整備が急がれる。「沈黙の肺炎」ともいわれるこの新型ウィルスについて、未だ解明が進んでいない。ここで大切なことは、現代感染症疫学の粋を集めてこの人類的危機に対応するのは当然だが、同時に、流言飛語に惑うことなく、世界市民が科学的見地に立って冷静に対応することであろう。例えば検査「陰性」とは、被検体が反応を示さないことを言うにすぎない。即ちウイルスの存在を否定するものではなく、その個体の免疫抗体が優った状態を推測するにすぎない。またワクチンのない時期は結局、各生命体の免疫獲得が頼りである。感染速度を可能な限り遅らせ時間を稼ぐ他ない。高齢者や基礎疾患のある方は特に要注意である。また、経済の大打撃を防止するには、地域経済中心の産業構造が基本となることを知らねばなるまい。私たちは根本的解決には相当な時間を要することを覚悟せねばなるまい。（中）

◎本会創立時から二〇年間、役員として活躍された大森定嗣さんの著書『見るべき程のことは見しか――自分史の試み』には、会の第一の重要課題は県下全自治体の「非核・平和都市宣言」の実現であり、第二ラウンドは「平和行政の充実要請」であると指摘されている。先達に学び、会の活動の継承発展に力を尽くしていきたい。（か）

いしかわの戦争遺跡めぐり⑦

フォトグラファー　中西　優

満蒙開拓者之碑＝輪島市時国家

西海分村開拓者慰霊碑＝珠洲市春日神社

一九三一年の満州事変後、国策で中国東北部に送り込まれた「満蒙開拓者」の慰霊碑が奥能登には複数残されています。当時、中国東北部では日本政府による土地の強制接収や買いたたき、支配が行われ、開拓団もその先兵とみなされるなど危険な状況にありました。

終戦直前にソ連が侵攻してくると開拓団は置き去りにされ、多くの人が無くなったり、残留を余儀なくされた状況も生まれました。

石川県内から開拓団として送られたのは約八〇〇〇人とされ、中能登や白山麓に加え、奥能登から送り込まれた住民も多かったとのことです。

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

広瀬勝子

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	開催内容	会場
4	1	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市広坂・四高記念公園教育会館前口
	4	土	10:00	むぎわらぼうし例会「たみちゃん・広島被爆地ツアー事前学習会」	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階研修室
	15	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市広坂・四高記念公園教育会館前口
	18	土	14:00	戦争をさせない石川の会・講演会「天皇代替わりと戦争」漆崎英之さん	金沢市下本多町・金沢歌劇座別館3階練習室
	22	水	10:00	ペシャワール会中村哲さんを追悼・活動写真展（～28日）	金沢市鞍月・石川県庁19階展望ロビー
	25	土	14:00	いしかわ市民連合・消費税講演会（碇山洋さん）	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階研修室
5	3	日	14:00	平和憲法施行73周年記念県民集会（清水雅彦さん）	金沢市下本多町・金沢歌劇座大ホール
	23	土	10:00	非核の政府を求める石川の会総会・記念講演（斉藤とも子さん）	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
	24	日	13:30	石川県社会保障推進協議会総会・記念講演（申へぼんさん）	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
6	7	日	10:00	原水爆禁止国民平和大行進・能登コース（～12日）	輪島市役所～内灘町役場
	14	日	10:30	原水爆禁止国民平和大行進・富山～広島コース（～24日）	津幡町九折～あわら市吉崎
	20	土	14:00	戦争をさせない石川の会・講演会「ジェンダーと戦争」ロニー・アレキサンダーさん	金沢市北安江・金沢市勤労者プラザ101号室

＊毎週金曜日 18:30 どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日 12:00 石川県沖縄連帯デ―

*会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中　年会費 2,000円　ゆうちょ銀行口座　00760－0－15689